

第3回 飯山市行政改革推進委員会 顛末

日時 平成26年5月19日(月) 午後3時00分
場所 飯山市役所31号会議室

出席者数 委員 12人 事務局 5人

1 開 会 (企画財政課長 進行)

2 会長あいさつ

先月開催された会議では、委員の皆様からこれまでの市の行革に関する取組みへの質問や意見を出していただいた。また、新たな計画づくりに向けても意見を出していただいた。

本日の会議では、前回の会議の結果を受けて、これからの審議のポイントを整理した資料が事前に送付されたので、その内容についてまず事務局から説明を求め、そのあと委員から質問、意見を出していただく時間を取りたい。限られた時間ではあるが、委員の皆様のご熱心なご審議をお願いしたい。

3 審議

(1) 飯山市第5次行財政改革大綱の骨子(案)について(資料1)

(事務局) (資料1について説明後) 今回示した内容で良いか、取組を更に進めるべき事項がないか等今回の資料をたたき台としてご意見をいただきたい。

(委員) 事前に資料が配付されたので、じっくり読んでみたが結論から言うと概ね良いと思う。今回策定するのは行財政改革大綱であるから、組織や財政等関連する分野に限定して記載するのが適切。総合計画は総花的なものであるが、行財政に係る計画であるのでそのようにならないようにしてほしい。目標管理ができる市民がチェックしやすいものとしてほしい。なお、人口問題については、飯山市最大の課題であると認識しているものの、本計画でそれを話題の中心に据えるのはなじまないと思った。

(委員) 資料3ページにあるとおり、この会議で議論するのは配付された資料の6ページまでの範囲ということで良いか確認したい。

(事務局) そのとおりです。

(委員) 3ページの目標の表現に違和感がある。第5次総合計画推進を図ることが行財政改革の目標ではないと思う。

(事務局) 委員ご指摘のような事柄について他にもご意見をいただきたい。

(委員) 先の委員の発言と同様、この案は立派な言葉が並んでいて良いと思うが、やや具体性に欠けているのではないか。事務局説明のとおり個別に実施する事項は庁内で検討することで良いが、その前段の大綱でもそれなりに具体的な事業や数値目標等の記載があっても良いと思う。

(委員) 4ページから6ページまでの基本方針毎の取組の方向性については、事務局案に意見を言うことはできるが、我々に他に意見を出せと言ってもなかなか難しい。

(委員) 以前配付された自立のための総括書では、達成とされた事項が多かった。その理由は、行政内部の評価だったからではないか。資料の5ページに外部評価制度導入の記述があるが、行政に都合の良いものだけを評価することなく評価対象事業や評価方法をしっかりと検討してほしい。

(事務局) 資料3ページ中「北陸新幹線飯山駅開業後～地域づくりに結び付けることが重要である。」の部分は、総合計画の趣旨を記載したものであるため、大綱に更に具体的な事業等を記載することは想定していない。また、行財政改革に係る事項については、この大綱の中でどの程度まで具体的な取組や数値目標等を

- 盛り込むべきか等についてご審議いただきたい。
- (委員) いきなり大綱案を示されても、議論しにくい。個別なものの議論から重要な事柄を大綱に盛り込むという議論の方法でどうか。
- (事務局) 4ページから6ページまでの項目について、個別具体的にご議論いただければと思うがいかがか。
- (会長) そのように議論を進めることとしたいが、詳しい資料がないと議論が深まらない。
- (委員) 個別の項目全てについて議論するのは難しいので、重要な事項を絞って議論してはどうか。個別の事項について議論が深まるように事務局で資料を用意してほしい。また、計画策定にあたっては、総花的にならずに具体的なポイントのみを記載すれば良い。あれもこれもと計画に書いてみても全部はできない。
- (事務局) 資料1の構成案に基づいて、職員数、施設の統廃合、市民と行政の役割分担を大きなテーマとしてご議論いただくことでどうか。
- (委員) 職員数の考え方は大きく分けて2つあると思う。一つは、とにかく減らせば良いという考え。もう一つは給料総額を抑制しながら、ある程度の人数を確保するという考えがあると思う。とにかくいかに職員を戦力として育てていくかが重要である。目標管理については、すぐに成果がでるものではないが、今後も実施を継続すべきと考える。目標管理の結果は、給料等に反映させているのか。
- (事務局) 現在は試行なので、目標管理の結果は参考程度としている。正式に実施となれば給与に反映していく予定である。
- (委員) 職員数の削減は、長期的な視点の下で時間をかけて実施すべき。削減したら残った職員で仕事をやるしかないが、そのためには職員のスキルアップと外部委託、市民協働をいかに進めるかが課題となる。また、出先機関の職員配置について見直しを進めてほしい。市民にしっかり出先機関の状況を認知してもらう必要がある。
- (委員) 活性化センター職員をどのように活かしていくのかこの会議で検討し、その結果を計画に反映してほしいと思う。また、協働のむらづくり、みちづくりといった事業の窓口の一本化についても同様。
- (委員) 少子化が進み、保育園児の数は減少しているが、保育士の数は減少しているように見えない。子育て支援に力を入れていると理解することもできるが、保育士の数の見直しも必要ではないか。
- (事務局) 保育現場、学校現場の職員数は、大幅に減少している。ただ、特別に支援が必要な児童には手厚い職員配置をしている。市の子育て支援策としてご理解いただきたい。
- (会長) 保育園には職員配置基準というものがある。今後職員数を削減すると言っても配置基準を無視できない。すぐにはできないが、施設の統廃合も視野に入れて時間をかけて検討する必要があるのではないか。
- (委員) 市民の年齢構成、社会の変化に対応した組織、職員配置をすべきである。必要な部門に適切な人数を配置しなければならない。
- (委員) 新幹線関連の投資が終わると基金残高が大幅に減少する。本計画でも財政面での数値目標を設けるべきである。
- (会長) 次回は、職員数、公共施設統廃合、協働のまちづくりについて、実績等の具体的なデータを事務局から示してもらいたい。

(2) 次回の開催日程について

- ① 日時 6月30日(月) 15時00分～
- ② 内容

4 その他 特になし。

5 閉会 (16:22 終了)